

## まちの話題募集中

～あなたがまちの特派員～  
あんなことやこんなこと、いま街角で一番輝いている話題をお知らせください。取材に伺います。  
問合せ：秘書課 ☎ 8701



## 祝1周年 北条鉄道で「なまはげ列車」

キハ40が東北から北条鉄道にやってきてから1年がたったことを記念し「キハ40デビュー1周年感謝祭」が開催されました。迫力満点の雄叫びに乗車した子どもたちは泣き叫びました。また北条町駅ではこの日だけの駅弁や鉄道クッキーなどが販売され、終日賑わいました。



## 泉小でアクティブバルーンスクール開催

泉小学校4年生は、加西の空を飛行している気球を教材として、理科の単元の一つである「空気のとまり方」について学習しました。ビニル袋で作ったオリジナルの球皮の中に、バーナーで温かい空気を入れると、温められた空気は膨張して軽くなり天井高く上昇しました。



松本紗奈さんは「想像より勢いよく飛んでびっくりしました。気球で実験したことで、もののとまり方もよくわかり、楽しく学べました」と笑顔で話しました。

## 五百羅漢で手作りひな祭り展

市内の手芸愛好家3人が制作した、雛人形や吊るし飾りなど約100点を展示する「雛祭り展」が、2月下旬から1カ月間、羅漢寺ミニギャラリーで開催されました。桃の節句らしい色合いの作品が多数展示され、愛好家の高井美里さんは「1年かけて制作しました。皆さんに見ただけでうれしいです」と笑顔で話しました。



## 富田小5年生「読書好きを増やしたい」

富田小学校の5年生は、本を好きになってもらいたいと、紀伊國屋書店の店員を招きポップづくりに挑戦しました。また、魅力ある空間になるよう、神戸親和女子大学の学生ボランティア7名による学校図書館のリニューアルが行われました。学生の川上静さんは、「リニューアルをきっかけに本への関心を広げていけたら」と話しました。



## 「トライやる」企業・事業所の課題解決へ



2月24日、市内4中学校代表による「トライやる・ウィーク」発表会が行われました。テーマは「加西市元気10倍プラン」。今年はSTEAM教育の一環として、探究型の学びを取り入れた初の試みで、各事業所から出された「課題」や加西市から出された「ミッション」に取り組みました。「トライやる」を通して、自分たちの目線で考え、課題解決を図るためのアイデアを発表しました。生徒からは、「市民も知らない加西市の魅力と課題が、知れてよかった」「実現できる日が楽しみ」といった感想がありました。

## 賀茂小 児童らアイデアをプロに提案

賀茂小学校6年生は、「お弁当づくりの困りごとを調べ解決策を考えよう」をテーマに、4班に分かれ、協力企業の(株)ニチレイフーズの社員に発表しました。食べられる容器の提案には、「商品づくりの参考にしたい」とのコメントがあり、児童は「自分の意見をプロに発表出来てよかった」と話しました。



## 職人に学ぶ 北条東小で「ミニ畳づくり」

北条東小学校4年生56名が、地元職人の高橋克仁さん指導の下、「ミニ畳づくり」に挑戦しました。木質のボードに畳表を張り、鋏で止め、建築工具ガンタッカーを使って縦20cm、横30cmのミニ畳を完成させました。竹内愛桜さんは「縁を合わせるのが難しかったけど楽しかった」岩野環さんは「置物の台に使いたい」と話しました。



## 北条小 個性豊かなミニ羅漢 窯出し

北条小学校6年生は、もみや木ぎれを積んで焼く手法「野焼き」で焼き上げたミニ羅漢を窯出ししました。稲垣空良さんは「割れていないか心配だったけど完璧です」前田桜花さんは「良い色合いに焼き上がってよかったです」とそれぞれ話しました。



## 『Coda あいのうた』映画上映会を開催

図書館×福祉課の初コラボ映画『Coda あいのうた』上映会を開催しました。映画後のミニ手話講座では、映画の感動を手話で家族に伝えられるように、何回も繰り返し練習しました。帰り際に皆さんが、講師に「ありがとう」と手話でお礼を言われる姿に、心がほっこりした映画会でした。



## 自転車マナーアップ目指し 自販機設置

交通安全意識を高めるため、ラッピングを施した自動販売機が「sora かさい」北側トイレ前に設置されました。これは、「チャリまち加西」として自転車利用者を積極的に受け入れている加西市に、兵庫県警察がキリンビバレッジと共同で取り組み設置したものです。売り上げの一部は支援団体に寄付されます。マナー、ルールを守って運転しましょう！



## 県広報コンクールで当市広報が入賞

2月26日に開催された「第70回兵庫県広報コンクール」で、加西市広報「すきやかさい」3月号特集「ようこそキハ40」が広報誌部門で入選に選ばれました。東北から海を渡って北条鉄道へ運ばれてきた車両を密着取材。「鉄分の濃さに担当者の熱意を感じた」と審査員から評価を受けました。これを励みにさらにながめます。

